

「モン」と「モン」の話

私の下の子が2歳になる。言葉を少しずつ覚え、単語すべては言えないが、語尾2文字だけは言える。だから、「アオ」(青)は言えるが、仮面ライダーゼロワンは2文字のみで「ワン」となる。するとポケモンは「モン」、そしてドラえもんも「モン」となる。私にはこの2つの「モン」は全く同じに聞こえる。ところが、私の娘、つまりこの子たちの母親は2つの「モン」を聞き分けられるというのである。すごいことであるし、驚きでもある。私には、全く同じ「モン」にしか聞こえないのだから。

教育は、教師と子どもとの間にのみ存在する。「モン」と「モン」を聞き分けることができる者でなくては、その子を教えることはできても、育むことはできないと思う。しかし、昨今「モン」と「モン」の違いがわからないような人々の声が大きくなっているように感じるのは私だけだろうか。その子への関心が強く、その子のことを内から知りたいと願う者以外に、この違いは聞き取ることができない。そういう存在以外が、子どもを豊かに育てることはできない。制度や仕組みとは違う次元の話である。

「モン」と「モン」の違いがわからない人々の声が大きくなっている理由のひとつは、違いを聞き分けられる人々が、そのことの意義や価値を十分に自覚し、教育者としての矜持を忘れかけているからなのではないか。日々子どもたちと一緒に生活をし、子どもたちの将来や子どもたちの有り様に深い関心を寄せ、些細な子どもの変化に気づくことができるのは、学校の先生なのである。学校の先生たちが、自分たちの存在に自信と誇りを取り戻すこと、それが子どもたちが幸せに育っていくために不可欠なことではないのだろうか。